

我が町 “有馬”

大井 香里

Ol Kaori

㈱三水コンサルタント
西日本事業本部大阪施設事業部



六甲山の北側に広がる緑豊かな住宅街と田園地帯，そこは私が育った地域“神戸市北区”です。神戸というと港町をイメージされる方がほとんどだと思いますが，北区にはそのイメージとはかけ離れた山々に囲まれた緑豊かな地域が広がっています。こんな神戸らしくない山あいの地域ですが，名所旧跡や貴重な歴史文化財が数多く残されており，日本最古の民家である箱木千年家に代表される茅葺屋根の住宅や，農村歌舞伎などの遺産がこの地域の古い歴史を現代に伝えてくれています。そのような山々に囲まれた土地でとりわけ有名な神戸を代表する観光地といえば“有馬温泉”でしょう。

最近では歴史ブームの影響もあり，豊臣秀吉が愛した“太閤の湯”や“関西の奥座敷”，はたまた“秘湯”としてメディアで紹介されることも多くなり，地元民としては，全国でもかなり有名な温泉地になったのではないかと感じています。そこで今回，有馬温泉の魅力を再発見しようと思い，友人と有馬散策に行ってきましたが，まさに灯台下暗し，掘り下げて調べてみると知らないことがたくさんありました。それではこれからほんの少しですが，わが愛すべき有馬をご紹介しますので，皆様も遠い彼の地に思いを馳せてみてください。



路地が入り組み，情緒あふれる街並み

有馬の歴史は遠く日本神話の時代にまでさかのぼり，大己貴命（おおなむちのみこと）と少彦名命（すくなひこなのみこと）の二神が三羽の傷ついたカラスが湧き出した泉で傷を癒しているのを目にし，温泉を発見したことが有馬温泉の始まりといわれています。有馬温泉は日本書紀にも登場するなど，日本最古の温泉といわれています。有馬の名が広く知られるようになったのは，鎌倉時代に仁西上人が薬師如来の十二神将をかたどって十二の宿坊を建ててからといわれます。旅行をするには相当な困難を伴った時代ですが，山あいの湯をも求めて多くの方が訪れたことは想像に難しくなく，なかでも太閤豊臣秀吉は幾度も有馬を訪れ，湯治や茶会を楽しんだといわれています。地震や大火の後には有馬の復興に尽力され，有馬温泉三恩人の一人として現代に語り継がれています。

さて，温泉といえば火山がつきものですが，近畿地方には活火山がありません。有馬の温泉は火山活動のないところから湧出している特異性のある温泉といわれています。西日本ではフィリピン海プレートが南海トラフで沈み込んでいますが，有馬は深度70～80kmの含水海洋プレート上の地表にあると推定されています。マントルが海水や石灰石を巻き込み，それらがマントルの亀裂の中を上昇し，鉄分などマントルの成分を吸収しながら地殻上部まで至り，地下水により薄められ，有馬に湧出しています。そのような状況により，有馬温泉の泉質は鉄分・塩分の含有がほかの温泉に比べて非常に高いため泉水は赤茶色に色づいており，専門的には「含鉄ナトリウム塩化物強塩高温泉」というなんだか難しい名前と呼ばれているそうですが，地元では「金泉」として親しまれています。金泉とは別に無色透明のお湯も湧出しており，そちらは「銀泉」と呼ばれています。この二種類の温泉が楽しめるのも有馬温泉の魅力といえるでしょう。



有馬天神社（右）と境内にある天神泉源（左）

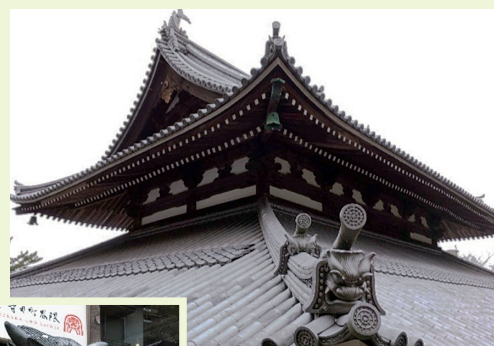
そんな有馬温泉ですが泉源が7つあり、その中でも私のおすすめは天神泉源です。この泉源はなんと天満宮、有馬天神社の境内にあります。ゴボゴボと音が響く境内には泉源から立ちこめる煙による独特の匂いがあり、石段や石畳は金泉色に、狛犬は黒く染まっていることから、天神泉源は金泉が沸く泉源だということがお分かりいただけるのですが、6つの金泉源の中で最も塩分濃度が高く、温泉成分が濃いといわれています。有馬温泉の金泉は温泉濃度が日本一であるため、天神泉源こそが日本一濃い温泉と言えるのではないのでしょうか。

有馬には温泉の楽しみだけでなく、古くからの文化を楽しめるイベントがあります。毎年6月には秀吉公と北政所の別邸跡と伝えられる念仏寺にて樹齢300余年の沙羅双樹と一弦琴の鑑賞会が開かれます。沙羅双樹の花の寿命はわずか一日。朝に咲き、夕方には地面に落ちてしまいます。過去に参加した際には、平家物語の一節を思わせるこの真っ白い花が咲いている貴重なひと時を琴の音色と共に堪能することができました。そして、いつかは行ってみたい入初（いりぞめ）式。行基菩薩と任西上人両師の恩徳を偲び、温泉の恵みに感謝し、弥栄を祈り、毎年1月2日に町を挙げて行われる式典です。大己貴命の御神体と行基と任西の御像を輿に乗せ行われる神仏両様の儀式により、有馬温泉の新春はめでたく迎えられます。

温泉街の近くで育った私は独特の温泉文化を当たり前の一般的なこととして捉えていました。15年ほど前まではこの地域のガソリンスタンドには当然のように看板に温泉マークが付いていました。だから私は全国どこのガソリンスタンドにもお湯の看板がついているものだと思っていたのですが、遊びに来た市外の友人が看板を見て「さすが有馬〜!」と

けらけらと笑っているのを見て初めてこれが普通じゃなかったのかと気づかされたのでした。また、大人になってから子どもの頃によく遊んだ小学校の裏山に登ってみると、川から湯気が立ち、硫黄の匂いがしていることに驚きました。恐らく当時の私にとっては何でもない光景だったのでしょうか。今となってはこの地で育った恩恵を感じることが増え、今回の散策でさらに地元に興味が湧きました。

さて、そろそろ小さな旅も終盤です。最後に歩き回った足を癒すため足湯へ（本当はちゃんと温泉につかりたかったのですが…）。もちろん足湯も金泉です。10分ほど足湯でほっこり。スニーカーを履いて歩き出すと、疲れが溜まっていたはずの足が軽やか爽快に!初めて足湯を体験した友人と私は感激しました。こんなに効果があるなら有馬に着いてすぐに足湯をしたら良かった!!今日は有馬温泉の成り立ちから効能まで、新しい発見づくしの一日となりました。入学そして桜の時期まで残り約1ヵ月、この繁忙期を乗り越え、有馬温泉でリフレッシュしたいと思います。



道端で見かける鬼瓦。この界隈で古くなった寺院の鬼瓦が魔除け、邪気払いの意をもって町内各地に配置されています